

東京証券取引所 プライム市場
証券コード 9824



2025年10月期 決算説明資料

泉州電業株式会社



決算説明会概要

[企業名] 泉州電業株式会社（証券コード：9824）

[決算期] 2025年10月期

[日時] 2025年12月10日（水）10：30～11：30

[場所] 東京都中央区日本橋室町2-2-1

岡三証券株式会社 室町本店 14階セミナールーム

[登壇者] 代表取締役社長 西村元秀

取締役経営企画室長 福田勇

東京証券取引所 プライム市場
証券コード 9824



2025年10月期 決算説明資料

泉州電業株式会社



泉州電業の社長の西村です。

本日は、当社の2025年10月期の決算説明をさせていただきます。

2025年10月期につきましては、残念ながら減収減益決算となりました。

4年連続続いた増収増益、3年連続続いた過去最高益更新の中で、前期については、設備投資の問題や人手不足の問題があり、減益決算となりました。

新しい期につきましては、再度上昇気流に乗るように努めてまいります。

その概要について中期経営計画の中で説明をさせていただきたいと思います。

まずこの決算資料の冒頭に泉州電業の今、力を入れている分野を表していますので、簡単に説明いたします。左側の方から、半導体関係、上に上がりましてロボット、そして自動車関係、あとは電気自動車です。右の方に行きまして、農業用のヒート線、そして太陽光発電関連、制御盤パネルといったものに非常に力を入れながら進めています。

下の建物の図は電線が建設全般に多く使われていますので、我々も相当この建設全般で仕事をしております。また右下の方にカラーで11月18日とあるのは電線の日のロゴです。2018年に電線の日が決められて、既に7年経っていますが、徐々に世の中に定着してきたと思っています。

たまたまその日が泉州電業の創業記念日です。泉州電業も今期で77期を迎え、電線と共にさらに業績を伸ばしていきたいと考えております。

1. 事業概要
2. 2025年10月期 決算概要
3. 中期経営計画 SS2027 進捗
4. 参考資料

今回、事業概要、2025年10月期の決算、そして昨年12月に発表した中期経営計画の進捗状況、あとは銅価を含めた参考資料についての説明をさせていただきたいと思います。

1. 事業概要

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

4

設立 昭和24年（1949年）11月18日

株式 東京証券取引所 プライム市場

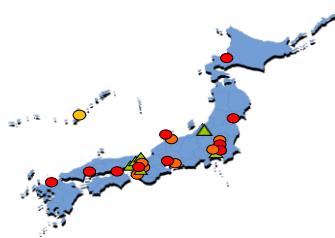
資本金 25億 7,520万円

業種 商業（電線総合商社 業界トップクラス）

従業員 838名（平均年齢39.6才）

子会社 国内7社／海外7社（中国・台湾・タイ・フィリピン・ベトナム・アメリカ）

事業所 国内18拠点



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

5

まず事業概要です。

泉州電業は1949年創業で、昭和24年11月18日にスタートしております。

現在、東証プライム市場に上場しております。

資本金が25億円、業種は商業、電線の専門商社ですが、電線から幅を広げており、電線の商社としては、業界トップの会社になります。

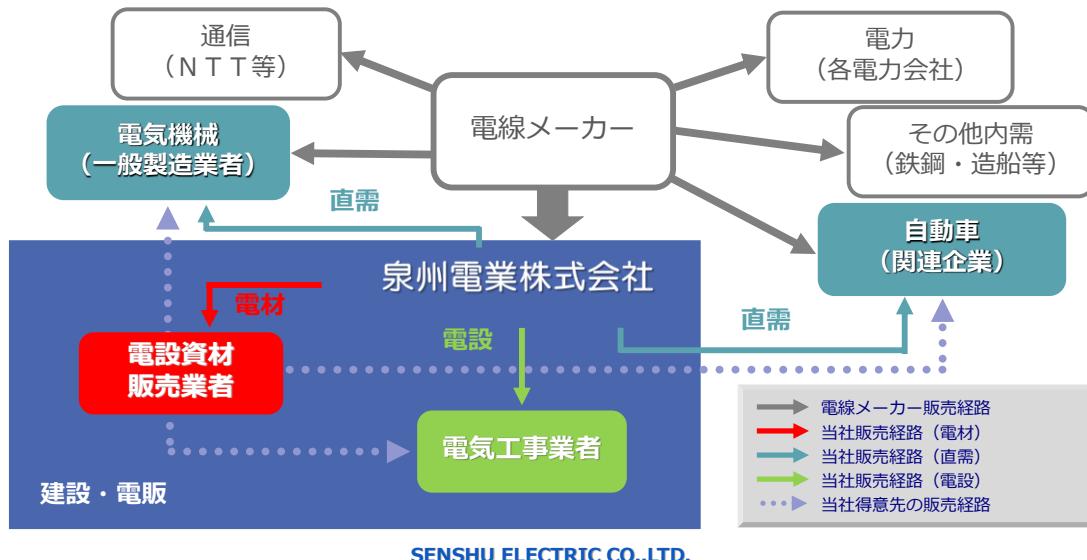
従業員数が連結ベースで838名、平均年齢が39.6才。

現在、国内では子会社7社、海外では7社、国別では中国、台湾、フィリピン、ベトナム、アメリカで展開しております。

あと国内事業所は北海道から沖縄まで、現在18拠点になります。

幅広く国内のお客さんに必要な電線を、必要なときに届けるという体制がしっかりできた会社とご理解いただけたらと思います。

事業概要・電線の販売経路



次に電線の販売経路です。

電線を作っているメーカーから、我々のような商社を通して、どのようにエンドユーザー、あるいは工事に使われているか、示したのがこの図でございます。

現在、電線メーカーは、日本で400数十社と非常に多くの電線メーカーがあります。

そのうち上場している最大手のメーカー、特に電力ケーブルを扱っているメーカーが直接売っている先として、有名なところでは電力会社です。そして通信会社、NTT等の通信全般も直接取引されています。

あとは民間関係の自動車、電気機械、半導体製造装置、鉄鋼造船等のある程度まとったものについては、電線メーカーが年間かなり大きな量を供給するため、直接販売されています。

ただ、下に青で囲った建設電販部門は、民間建設、住宅等に使われる電線については、電線メーカーは直接販売する形態を取らずに、我々のような商社を通す展開をしております。この部分は銅電線の販売の中では、40%以上を占める大きな分野です。

その中で、我々のような電線の専門商社は、メーカーから電線を買い、まず電設資材販売業者、いわゆる電気工事材料を扱っている全国商社に電線を販売するという形を取っております。こういった商社は今全国に1000社以上あり、それぞれの地域の電気工事業者、あるいはエンドユーザーに電線や電気材料を売られている会社です。この電設資材販売業者の売上に占める電線の割合は、大体20%から30%と言われています。

次に全国の電気工事業者です。今、電気工事業者は全国で6万社以上ありますが、電気工事業者の中でも上位30社ほどの大手、いわゆるサブコンが電設になります。

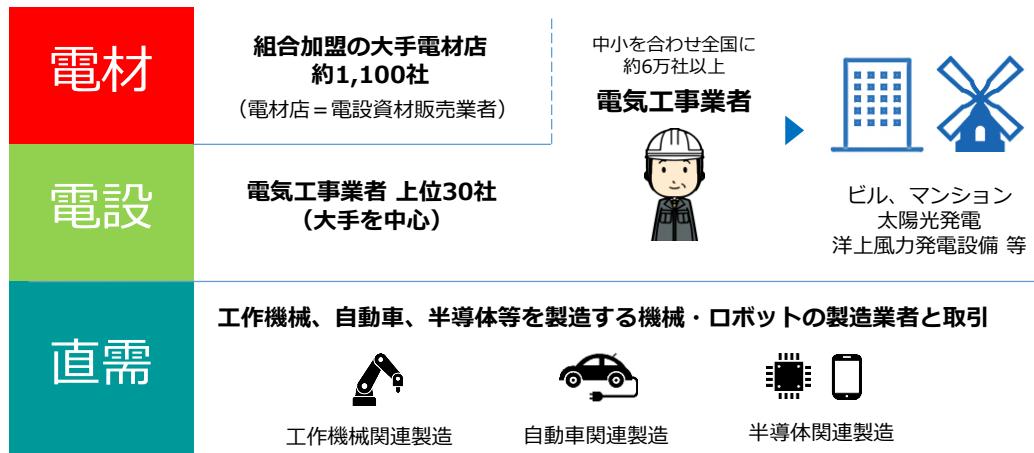
この電材ルート、電設ルート、これが主力となって建設電販市場を賄っており、我々はそれだけでなく、中小の電線メーカーとタイアップして泉州電業でしか買えない商品を作り、本来なら電線メーカーが供給する電気機械、半導体、工作機械、あるいは自動車の製造関係、その他、いろんな製造メーカーに対して我々が直接売るというルートを持っております。これを直需ルートと呼んでおります。

現在、泉州電業は電線の流通経路としては、電材、電設、直需、この3つのルートで展開しております。

主な得意先（イメージ）



〈得意先数 3,700社以上〉



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

7

得意先のイメージです。

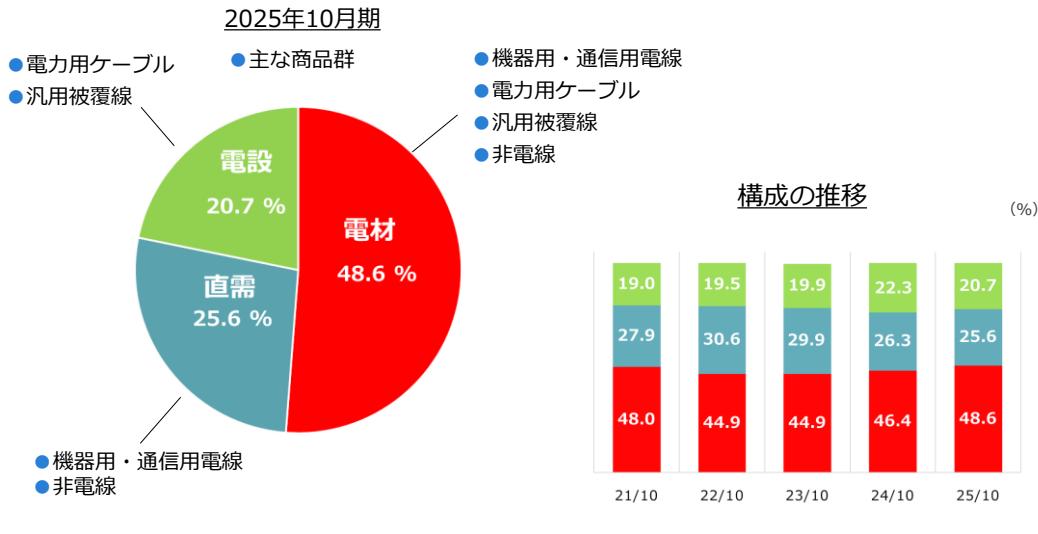
現在、泉州電業の得意先が3700社以上、連結を含めると4500社ぐらいになりますが、大きく分けて、電材・電設・直需というのは、先ほど申した通りです。

一番大きな分野は電材です。泉州電業が77年前に商売を始めた当時から、全国の電材店とは深いつながりを持って展開しておりました。こういった電材店が中小の電気工事屋に電線を含めた電気材料を売られ、そこが全国のビルやマンション、住宅、建物、場合によっては太陽光から風力発電まで担当されています。

またその次の電設は大手の電気工事屋で、比較的大きな物件です。最近終わりました2025年大阪・関西万博も大きなプロジェクトでありました。電線の注文をいただいて、1年半後に納めるといった仕事をしております。

あと残りは直需で、工作機械、自動車の生産ライン、半導体の製造関係です。電線の販売、あるいは電線を含めた加工の注文をいただいて、商売をしております。

得意先の構成 (単体) 2025年10月期



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

8

構成で言いますと、電材が一番多いです。売上の内訳で、約半分ぐらいが電材、あとは電設と直需、若干直需の方が多く、電設で売っているものは電力用ケーブルといい、銅の使われている割合が高い電線で、最近のように銅価格が上昇しますと、この分野の売上の構成比が上がります。過去5年の動きを見ますと、若干電設のウェイトが高まっているという特徴があります。

3つのビジネスモデル（強み）



1

JUST IN TIME 体制
(ジャスト イン タイム)

電線は約20万種と種類も多く重量物であり、保管場所や盗難等の観点から、在庫しづらい。当社は国内（札幌～沖縄）に倉庫床面積約7万m²の物流拠点で5万種以上を品揃え、“必要な時に必要な量を”に対応できる体制（JUST IN TIME）を整える。



2

オリジナル商品



ロボット等に使用されるケーブル=FAケーブル（Factory Automation/ファクトリーオートメーション）を電線メーカーと開発し、当社独自商品（オリジナル商品）として販売。多種多様なニーズを的確に捉え、技術商社としての役割を担う。

3

電線端末加工
(ケーブルアッセンブリ)

電線販売以外に端末を付属した電線や制御盤等、小ロット・多品種・短納期の加工ニーズに、全国18拠点中8か所にある加工場で対応。またグループ会社でも体制を整備し連携を図る。



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

9

当社のビジネスモデルは3つあります。1つはJUST_IN_TIMEです。

お客様が必要な時に必要な電線を届ける体制をJUST_IN_TIMEと呼んでおり、これができるのは全国に倉庫を持ち、また品揃えを持っており、各電線メーカーとしっかりと連携し、どのメーカーがどういう電線をどのタイミングで作れるのか、これもしっかりと把握しながらお客様のニーズに応えていく展開を取っております。

電線はその種類が約20万種類あると言われています。いろんなサイズ、用途の電線がありますが、泉州電業は全国7万m²の物流倉庫で、5万種類以上の在庫を持っております。お客様から見ますと泉州電業に行けば、大体どんな種類の電線もある程度の量は確保できるといった展開です。こういう信頼性を持ちながら展開をしております。

北海道から九州・沖縄まで、在庫を持つことはなかなか大変なことであり、電線自体が非常に重量物で、在庫するにはしっかりとした倉庫が必要であり、昨今の電線に使われる銅の価格が値上がりしているため、非常に電線が盗難に遭いやすいという特徴もあり、盗難防止もできる倉庫が必要です。お客様からしますと、電線を在庫するのは非常に困難であり、必要な時に泉州電業のような商社から買うというのが非常に重要になってきております。

2つ目はオリジナル商品です。

特にFAケーブルは、泉州電業からしか買えない商品を中小の技術力の高い電線メーカーと長年タイアップしながら市場調査をし、開発して、世に送り出しています。あるいは展示会等でPRして市場を広げていますが、お客様からすれば、泉州電業は商社ですが、この分野ではメーカーと同じような扱いを受けております。こういったファクトリーオートメーション関係、これからまだまだ伸びる分野であり、ここで強みを持っているのが、泉州電業の特徴です。

3つ目は電線の端末加工、ケーブルアッセンブリです。

電線を右から左にそのまま売っていく、これが元々の商売の形態ですが、直需関係のお客様は、電線に部品を付ける、あるいはパネルに組み立てていく等、今までお客様がしていた仕事を当社に頼まれるようになり、そのため、加工場を全国に持っております。そこで電線をカットして、部品をつけていく、あるいはパネルで設置していくことも当社の特徴としております。

これによって泉州電業としては、我々が得意とするオリジナル商品を使っていただき、お客様の技術を吸収できるという利点があります。泉州電業の社章にSTEC、SENSHU ELECTRICの間にTを入れていますが、これはテクノロジーのTです。これから技術商社、より高い利益を上げるためのビジネスモデル、これを展開しております。

2. 2025年10月期 決算概要

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

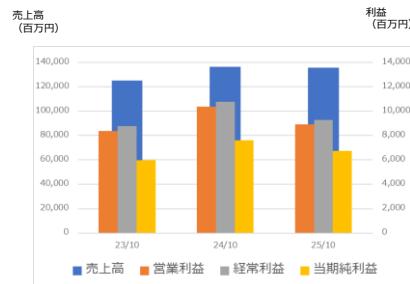
10

実績

- 半導体製造装置向け、工作機械向け及び自動車向けの需要の回復が遅れており、また建設・電販向けについても資材高騰や人手不足などによって工期の遅れが発生。
- 銅建値平均は前期比4.8%増の147.6万円/t

株主還元策 (配当金及び自己株式の取得)

- 2025年10月期 年間150円 中間配当75円/株、期末配当75円/株
- 2026年10月期 年間150円予想
- 自己株式の取得 (10万株、5億円(上限) 2025年11月1日から2026年4月30日まで)



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

11

続きまして、決算概要です。

冒頭で申したように、2025年10月期は残念ながら減収減益となっております。

まずは直需関係、特に半導体製造装置並びに工作機械関係の需要が遅れています。これは当初よりも1年以上も既に遅れており、着実に底は打って戻ってきてているという手応えを感じており、ここはしっかりと客層を広げながら、進めております。

あとは建設電販部門です。実際、売上自体は若干増えておりますが、量自体が落ちております。

落ちた理由は、建設全般に言えますが、人手が不足していることで従来よりも工期が長くなり、遅れています。これによって、本来なら売上が上がる時期がずれ込んだり、あるいは先送りになっていますので、影響も受けております。この建設業界の人手不足は非常に深刻でして、選別受注にもなり、業界自体の利益構造は非常に良くなっていますが、今後の問題として、我々も深い興味を持って進めております。ただこれから大きなプロジェクトがさらに進んでいきます。2025年大阪・関西万博の跡地では今、IRカジノの建設がスタートしております。これが2030年開業と言われており、そのためには2028年頃には相当量の電線が必要になります。また、データセンターや再生エネルギー、あるいは首都圏都市開発の需要をしっかりと取り込んでいくことが課題になっております。

半導体製造装置向け、工作機械向け、自動車向けがトランプ関税の問題が今年の前半に起り、ある程度の解決はしていますが、やはり設備投資自体は少し先送りになったものもあります。

一方、銅建値は147万円と、1年前に比べて4.8%増加しています。この上昇幅の4.8%というのは昨年が12%ほど伸びていましたので、伸び率そのものは大きくはなかったですが、ただ9月後半から10月にかけて、急に銅が上がっており、今現在188万円と、非常に銅が上がっております。

また、株主還元策は2025年10月期は年間150円、これが2024年10月期に比べて20円の増配になります。

中間、期末とも10円ずつの増配です。2026年10月期は今のところ150円を維持という予想にしております。

これも業績によって、機動的な配当になるかと思います。

自己株の取得で現在進めているのは、11月から来年4月までの10万株、5億円上限の自社株買いです。

連結損益計算書の概況



(単位：百万円、百万円未満切捨て)

	2024/10		2025/10		増減	
	金額	%	金額	%	金額	%
売上高	136,153	100.0	135,591	100.0	△ 561	△ 0.4
売上原価	115,007	84.5	115,100	84.9	93	0.1
売上総利益	21,145	15.5	20,491	15.1	△ 654	△ 3.1
販管費	10,795	7.9	11,538	8.5	742	6.9
営業利益	10,349	7.6	8,952	6.6	△ 1,397	△ 13.5
営業外収益	525	0.4	616	0.4	90	
営業外費用	114	0.1	296	0.2	182	
経常利益	10,761	7.9	9,272	6.8	△ 1,489	△ 13.8
特別利益	349	0.3	557	0.4	208	
税金等調整前当期純利益	11,110	8.2	9,829	7.2	△ 1,280	△ 11.5
法人税等合計	3,501	2.6	3,080	2.2	△ 421	
当期純利益	7,609	5.6	6,749	5.0	△ 859	△ 11.3
非支配株主当期純利益	31	0.0	31	0.0	0	
親会社株主当期純利益	7,578	5.6	6,717	5.0	△ 860	△ 11.4
平均銅建値(千円/t)	1,409		1,476		67	4.8

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

12

これが連結の損益計算書です。

このように売上はわずかのマイナス、0.4%の減収です。

粗利が6億5400万円、3.1%減少しております。

粗利率が15.5%から15.1%と、0.4ポイント減っております。

一方、販管費が6.9%増加しております。販管費の増加は、やはり人件費を中心になっています。

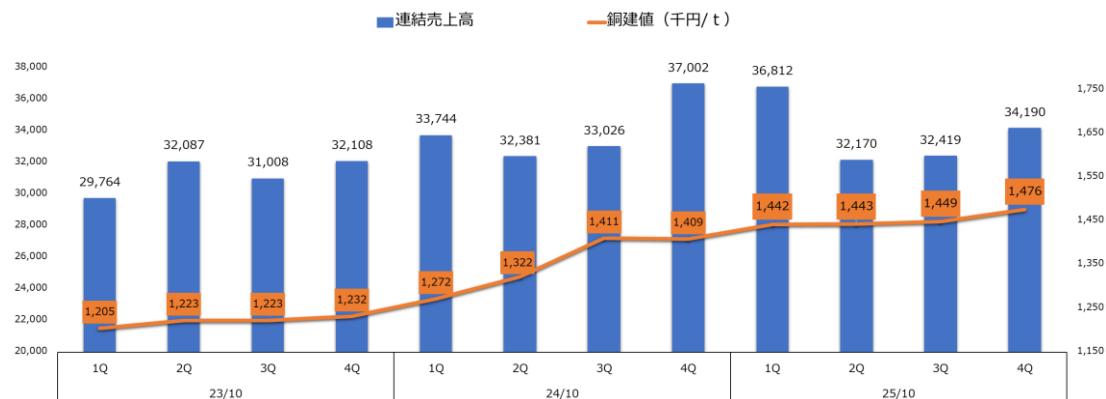
我々も人の確保が重要課題になっており、ベースアップ等も行ったため、人件費が上がってきています。さらにその他設備投資も行っておりますので、減価償却費等も上がっております。

粗利率が低下して、販管費が上がりましたので、営業利益が89億5200万円と、前年に比べて13.5%の減益、5年ぶりの減益決算となりました。営業外収益・費用を入れて、経常利益が92億7200万円、前年に比べて13%の減益決算になっております。最終利益も11%の減益です。

連結売上高 四半期推移



(百万円)



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

13

連結売上高の3ヶ月ベースのグラフです。

終わりました期は第一四半期が良かったが、第二四半期に落ちて、その後回復しましたが、結局は当初の予算は届かなかった決算です。2024年10月期は同じく第一四半期が良くて、また落ち込んで、最後盛り上げ、四半期ベースで見ますと、2024年10月期の第4四半期と、前期の第1四半期が山場になっています。

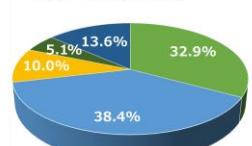
銅価は、じり高といった動きになっております。

商品別売上高（単体）

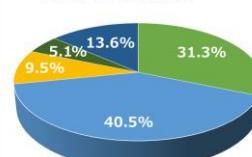


	2024年10月期 実績		2025年10月期 実績		増減	(前期比)
	(構成比)		(構成比)			
●機器用・通信用電線	42,615	32.9%	40,163	31.3%	△ 2,452	△ 5.8%
●電力用ケーブル	49,724	38.4%	51,985	40.5%	2,261	4.5%
●汎用被覆線	12,944	10.0%	12,120	9.5%	△ 824	△ 6.4%
●その他電線	6,604	5.1%	6,541	5.1%	△ 63	△ 1.0%
●非電線	17,596	13.6%	17,413	13.6%	△ 183	△ 1.0%
合計	129,485	100.0%	128,224	100.0%	△ 1,261	△ 1.0%
平均銅建値（千円/t）	1,409		1,476		67	4.8%

2024年10月期実績



2025年10月期実績



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

14

次は単体の売上の内訳です。

泉州電業は95%以上が単体の売上ですから、単体の内訳をこのように発表しております。

上から機器用・通信用電線、ここにFAケーブルが入りますが、今回5%の減収となっております。

2024年10月期426億円から、2025年10月期は401億円と24億円落ちましたが、その前は約10%ほど伸びていましたので、前期の反動的な部分も一部はあります。本来伸びるべき分野が少しずれているということもあります。半導体製造装置も工作機械も底から見たら着実に戻っていますので、2026年10月期はしっかりとここを伸ばしていきたいと思っています。

次に電力用ケーブル、ここが4.5%伸びています。

伸びてはいますが、やはり銅価格が4.8%上がっていることの影響度が一番多い商品群です。ただ冒頭に言いましたように、工期の遅れ等もあり、実際やや売上自体は伸び悩み気味であり、大型案件の谷間でもございます。前期の大型半導体工場の後、特に前期の後半辺りはだいぶ落ち込んでいました。

汎用被覆線は住宅関係になり、あまり良くなかったです。

その他電線は、基礎材料のある裸銅線の売上になります。

非電線、ハーネス加工、太陽光関係を含めたもので1%ほど減少し、全般として単体では1%の売上減になりました。

連結通期予想・見通し



(単位：百万円、%)

	2025年10月期		2026年10月期			2025年10月期		2026年10月期		
	2Q実績	構成比	2Q予想	構成比	前期比	実績	構成比	予想	構成比	前期比
売上高	68,982	100.0	70,000	100.0	1.5	135,591	100.0	144,000	100.0	6.2
営業利益	4,798	7.0	5,000	7.1	4.2	8,952	6.6	10,700	7.4	19.5
経常利益	5,025	7.3	5,100	7.3	1.5	9,272	6.8	11,000	7.6	18.6
親会社株主に帰属する当期純利益	3,405	4.9	3,500	5.0	2.8	6,717	5.0	7,700	5.3	14.6
平均銅建値 (千円/ t)	1,443		1,600		10.9	1,476		1,600		8.4

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

15

予想です。

2026年10月期については増収増益、過去最高益更新の予想としております。

売上1440億円、前年比6.2%の増収、営業利益107億円、19.5%の増益、経常利益110億円、

18.6%の増益、純利益77億円、14.6%の増益を見込んでおります。

銅ベースをこの計画を立てた時点で、160万円としております。これは前期平均からしますと、8.4%の上昇ですが、足元銅価格が188万円まで上がっており、四半期ベースで見直しをさせていただきたいと思っております。

連結貸借対照表の概況



	2024/10	2025/10	増減		2024/10	2025/10	増減
現金・預金	30,513	32,966	2,453	支払手形・買掛金	48,676	45,261	△ 3,414
受取手形・売掛金	26,451	22,029	△ 4,421	短期借入金	381	461	79
電子記録債権	13,149	10,844	△ 2,305	1年内償還予定の社債	14	14	—
有価証券	20	2,000	1,979	未払法人税等	2,262	1,303	△ 959
商品	8,046	7,807	△ 238	賞与引当金	852	841	△ 11
仕掛品	194	107	△ 87	その他流動負債	1,732	1,441	△ 292
原材料及び貯蔵品	294	218	△ 76				
その他流動資産	772	321	△ 451				
流動資産合計	79,442	76,294	△ 3,148	流動負債合計	53,920	49,323	△ 4,596
有形固定資産	21,887	22,241	354	社債	28	14	△ 14
無形固定資産	245	130	△ 114	退職給付に係る負債	2,224	2,066	△ 158
投資その他の資産	10,881	12,335	1,453	その他固定負債	680	673	△ 7
固定資産合計	33,014	34,708	1,693	固定負債合計	2,935	2,755	△ 180
				負債合計	56,856	52,079	△ 4,777
				資本金	2,575	2,575	—
				資本剰余金	700	700	—
				利益剰余金	53,760	55,036	1,275
				自己株式	△ 3,997	△ 2,260	1,736
				株主資本計	53,038	56,051	3,012
				包括利益累計額	2,172	2,404	232
				新株予約権	22	40	17
				非支配株主持分	368	427	59
				純資産計	55,601	58,923	3,322
資産合計	112,457	111,002	△ 1,454	負債・純資産合計	112,457	111,002	△ 1,454

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

16

続いて貸借対照表です。

総資産が全般的に減っておりますが、その中で現預金が増えております。

現預金が329億円、前期末に比べて24億円の増加です。受取手形・売掛金、電子記録債権が60億円以上減っております。これは前期末が突出して売上が増えたことで、その反動がありました。

右の買掛金、仕入手形も同じ理由で減っております。

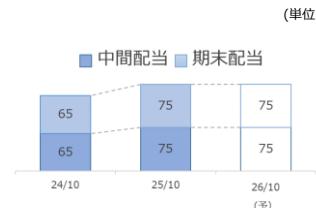
配当金（年間150円予想）

1

安定的な配当を基本方針とし、業績・内部留保等を考慮し、総合的に判断して配当を実施。

2025年10月期は中間配当75円、期末配当75円。

2026年10月期は中間配当75円、期末配当75円の年間150円。



2

自己株式の取得

株主還元の充実と資本効率の向上及び経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するため、自己株式を取得中。

- 取得し得る株式総数 **100,000株** (上限)
 - 取得価額総額 **500,000,000円** (上限)
- (取得期間 2025年11月1日～2026年4月30日)

3

株主優待（年1回100株以上保有株主様）

1年末満：1000円分のオリジナルQUOカード
1年以上：2000円分のオリジナルQUOカード

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

17

続いて還元策です。

配当金はこの2025年10月期は150円と、20円の年間増配、今期の予想は150円を維持としています。ただ、これにつきましては、業績次第で検討していきたいと思っております。

2025年10月期段階で12年連続の増配となっております。

あと自社株買いです。

これも現在継続しているのは、10月31日発表の自社株買いです。

10万株、5億円、来年の4月末まで今実施中です。

あとは株主優待、QUOカードを発行しております。

3. 中期経営計画 SS2027 進捗

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

18

2025年10月期は、前年同期比で減収減益でありましたが、
2024年12月9日発表の「泉州電業グループ中期経営計画」(SS2027)は、変更いたしません。

	2024年10月期 実績	2025年10月期 実績	2027年10月期 目標	25/10比 (進捗率)
連結売上高	1,361億円	1,355億円	1,600億円	84.7%
経常利益	107億円	92億円	130億円	70.8%
ROE	14.4%	11.8%	15%以上	+3.2pt
配当性向	30.1%	38.7%	35%以上	-
株主総還元率	48.0%	58.4%	50%以上	-
PBR	1.62倍	1.33倍	2.0倍以上	+0.67倍

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

19

続いて中期の進捗です。

2024年12月9日に発表した中期経営計画で、2027年10月期、売上1,600億円、経常利益130億円、ROE15%以上、配当性向35%以上、総還元率が50%以上、PBRは2倍以上としましたが、2025年10月期業績は、一步後退になっています。それぞれの指標も、配当性向・総還元率以外は一步退いた形にはなっています。

目標達成に向けての進捗率が、売上で84.7%、経常利益で70.8%、ROEもあと3.2ポイント上げる必要があります。配当性向は、利益が落ちた分が上がりましたが、還元率も同じことで上がっています。

PBRが1.3倍で、2倍までにはまだまだ届いておらず、これをどう埋めていくのかが重要だと思っています。

まずは今期の予想を達成し、来期さらに高い目標に向けてチャレンジする形になるかと思います。ただ、銅ベースが予想以上に強いこと、大型件名関係がこれから5年先、大きなものがございます。これをしっかりと対応していく、あとは設備投資関係全般に非常に活気が出ることが予想されています。現在、高市自民党の新政権の下で、新しい経済政策が来年発表される予定であり、設備投資については、相当大きな減税措置も取られると聞いています。これも企業の規模問わず行われ、やはり設備投資全般、人手不足も相まって強まってくるものと思っています。

12月の初めに、東京のビッグサイトで国際ロボットショーが行われ、非常に盛況で多くの人が集まりましたが、ロボット関係については相当いろんなニーズが出てくると我々は思っています。そういう分野をしっかりと抑えて、次の展開につなげていけば、この目標達成も可能だと思っています。

中期経営計画 SS2027：市場環境・予測



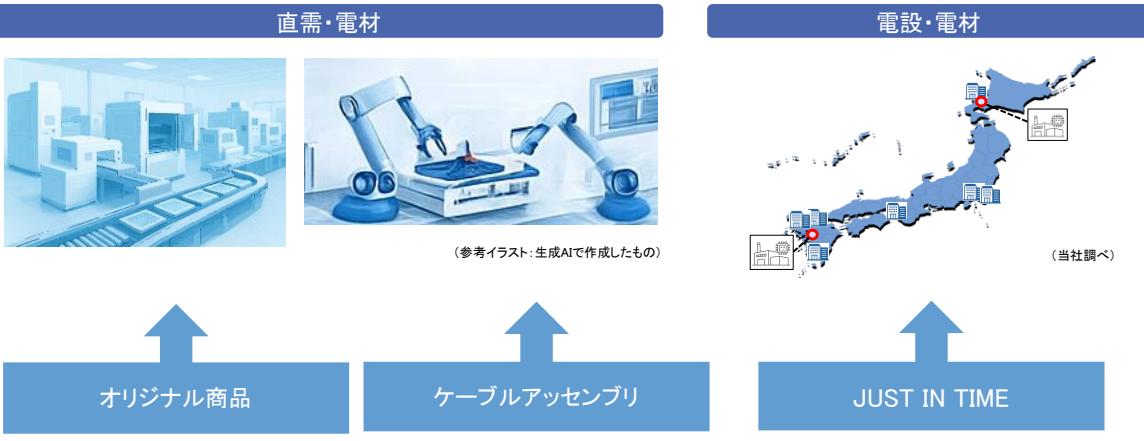
	2024年10月期	2025年10月期	2026年10月期-2027年10月期	業種
半導体関連	AI需要増 ・製造業者の在庫調整	AI特需で急成長も地域差あり ・一部在庫調整の名残り	AI需要継続 ・緩やかに上昇	直需 電材
工作機械関連	・製造業者の在庫調整	・製造業者の生産計画底打ち	・外需好調も内需は限定的	
自動車関連	・堅調に推移	・米関税による設備投資停滞	・EV、蓄電池への設備投資 ・米関税対応(負担)	
再生可能工材関連	太陽光発電増	太陽光発電は伸びが鈍化	電力需要増 (半導体工場やデータセンター)	電材 電設
建設関連	・大型半導体工場 ・再開発、データセンター	・建設案件はあるも工期遅延 や建設の谷間	・大型半導体工場、 データセンター建設 ・人手不足による工期遅延	
銅価格	・急激な上昇	・乱高下しながら高値で推移	・緩やかな上昇	-

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

20

中期の市場環境予測ですが、これもあくまでも予測です。

今現在こう見ており、1年前の予測とまた変わってきましたが、半導体、工作機械はややずれ込んで回復という形です。自動車も同じように、今回はトランプ関税の影響が強くありました。再工材関係も継続して行い、建設関係も一旦足踏みしながらまた再度伸びていくという展開になると思っています。



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

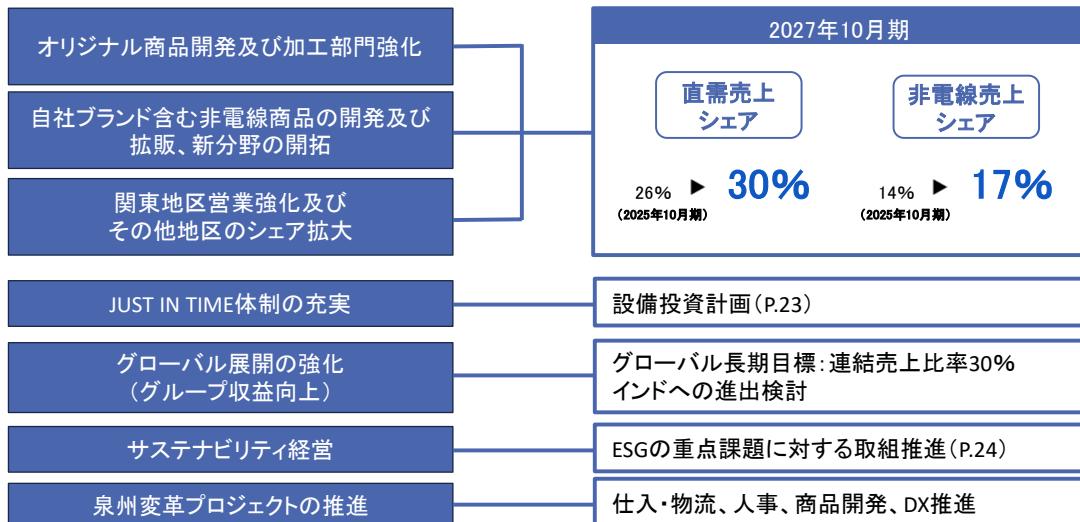
21

事業戦略はオリジナル商品をFA半導体関係にしっかりと売り込んでいき、あるいは加工、ケーブルアッセンブリを進めていく形になります。

あとはJUST_IN_TIME体制です。全国ほぼ各拠点の整備が終わっていますので、これからその効力を発揮していくのではないかと思います。

特にこの4月に開設した名古屋FAセンターについては、特に東海地区、工作機械、半導体、自動車関係が集積しており、まだまだ我々の商材の販売先を広げられると思いますので、海外とも連携しながら進めていきたいと考えています。

中期経営計画 SS2027：事業戦略



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

22

中期経営計画の概略です。

オリジナル商品の拡販、自社ブランド品の拡販、非電線の拡販です。

直需の売上のシェアは現在、売上の約26%ですが、あと4ポイント上げて30%に持っていきたいと思っています。これにより、非常に高い利益率になってくるのではないかと思います。銅価格にもよるのですが、直需に力を入れていく時期ではないかと思います。あるいは非電線も利益率の高い商材が多く、加工も含めており、現在の14%の売上構成を17%にあるのが目標です。

あとはJUST_IN_TIMEの充実です。

泉州電業がここまでお客様の信頼を得ているのは、しっかりとした品揃え、在庫を持ってそれをお客様のニーズに合わせてデリバリーできることです。これはお客様だけでなく、メーカーにも非常に信頼を置かれています。各地区、各拠点に物を持って展開することが、さらに今要求されています。

加えてグローバルです。長い目で見ますと、日本の人口は減っていきます。

現在1億2千万人が、2050年には8千万人になると言われています。まだ先の話ですが、日本の市場だけでは、やはり業績拡大には限界があることが予想されますので、今の段階から海外に力を入れております。海外市場については、日本も半導体、自動車、工作機械並びに日本の製造業だけでなく、日本の産業全般はこれからさらに海外に展開する中で、当社の電線を中心とした商社取引は、さらに伸びる余地が多いと思っております。

現在のアジア中心の展開から一部アメリカに展開を始めていますが、次は同じアジアでも、東アジア、インド、あとは中東、アフリカ、ヨーロッパと、まだまだやるべきところが多いと思いますので、しっかりと地道に進めていきたいと思っております。

ソイルヒーター

アグリ事業で2027年までに **年間売上高10億円**



農業用地中加温ビニール線

ビニールハウス等の土壤を直接温めることで
CO2の排出削減に寄与し、
生育スピードが早まることで
収穫回転率（サイクル）を上げます。



SDGsに貢献

燃料を使用するボイラーに代わり、
ビニールハウス内を温めることから
脱炭素、省エネ製品です。



試験圃場（稻沢ハウス）

2025年4月名古屋FAセンター近隣へ
ソイルヒーター試験圃場（稻沢ハウス）
を新築移転しました。
いちごを中心とした様々な試験を行っています。



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

23

新商品のソイルヒーターです。

2025年大阪・関西万博において、2025年6月に3日間だけですが、この商品を展示させていただきました。TEAM EXPOパビリオン（万博の西ゲートを入ってそのまま右に曲がり、空飛ぶ自動車が置いてある付近のコーナー）です。

そこで3日間この商品を展示いたしました。約2000人の来場者があって、私は1日海外のお客さんを含めて対応いたしました。

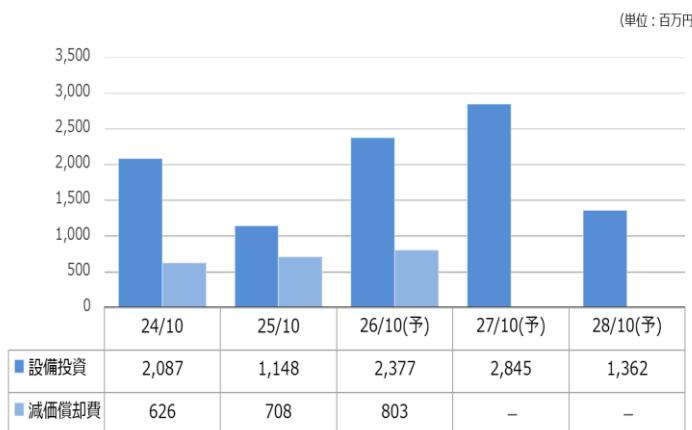
この商品がいかに環境にプラスか、あるいは農業製品の生育に役立っているか、あと日本国内の農業事業者に受け入れられているかという説明いたしました。

イチゴで日本一になられたメーカーさんも来られまして、一緒にPRしていただいたのが印象的でした。

売上自体もそうですが、知名度が今だいぶ上がってきましたので、これから拡販に力を入れていけると思っております。

今までこのビニールハウスの中では重油を使って温めておりましたが、やはり重油のコストが高くなっていることと、CO2を発生すること、土を直接温めるというこの電線が非常にユニークです。これが農作物の生育に非常にプラスになると言われており、環境に優しい、コストが安い、加えて植物の生育が早くなる、この3つのポイントが、私は世界規模で販売できる商品だと思います。これからしっかりとPRをしていきたいと思っています。

中期経営計画 SS2027：設備投資と減価償却費



2025年4月 名古屋FAセンター開設

手狭となった名古屋支店の物流倉庫を拡大し、
ケーブルアッセンブリーや制御盤組立て等を行う
FAセンターとして新築移転



2026年10月期以降 沖縄営業所(仮称)

現 沖縄物流センターの業容拡大のため、計画中

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

24

あと、設備投資の状況です。

2025年10月期には11億4800万円、当初よりも約5億円ほど少なめですが、設備投資を行っております。

あと、2026年10月期は23億円、この2025年、2026年については名古屋のFA関係、これが中心になっております。その分、償却負担も増えております。

あとは2027年、2028年にかけて本社の移転・新築プロジェクトがあります。

また、草津のFAセンター新築、沖縄の営業所の新築、こういったものを進めていくために設備投資を予定しております。

中期経営計画：サステナビリティ経営



Materiality -重要課題-

関連するSDGs

TOPICS

Environment
環境

環境保全活動

- ▶ CO2排出量削減
- ▶ 気候変動への対応
- ▶ 環境法規制の遵守



Social
社会

人権の尊重と配慮

- ▶ 働きがいのある職場環境の整備
- ▶ 安定的な商品供給とサービスの供給
- ▶ 情報セキュリティ強化
- ▶ 品質管理体制の強化
- ▶ 取引先・従業員とのエンゲージメント向上
- ▶ 健康経営の推進
- ▶ 安全衛生の充実
- ▶ ダイバーシティの推進
- ▶ 福利厚生の充実



Governance
ガバナンス

ガバナンスの強化

- ▶ コーポレート・ガバナンスの充実
- ▶ コンプライアンスの徹底
- ▶ リスク管理



「くるみん認定」の取得

当社は、育児休業制度の充実や働きやすい職場環境の改善に継続して取り組み、次世代育成支援対策推進法に基づき、厚生労働省より「子育てサポート企業」として2025年4月に「くるみん認定」を取得いたしました。

また、当社は2024年度に引き続き、2025年度につきましても男女共に育児休業取得率100%を達成いたしました。育児休業取得以外に、従業員の仕事と子育ての両立を図るための雇用環境の整備や、多様な労働条件の整備などに取り組むための「一般事業主行動計画」を定め、推進しております。

今後も従業員が安心して活躍できる環境と、男女問わず働きやすい職場を目指してまいります。



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

25

あと、サステナビリティ経営です。短信にも少し詳しく書いてありますが、やはり環境、社会、ガバナンスと、この3つをしっかりと上場企業として進めていき、SDGsの17の項目を落としこみながら進めていきます。

くるみんの認証も取得し、さらに女性活躍を後押しする事業展開です。

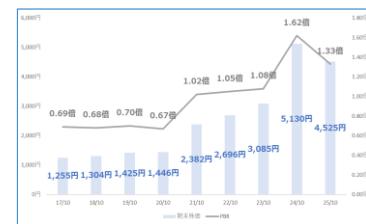
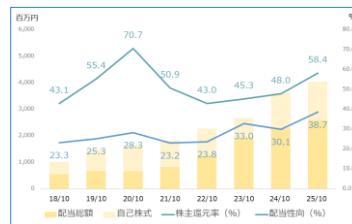
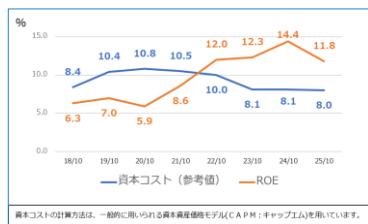
女性管理職比率を上げていく長期目標に向けても進めております。

現状評価/2025年10月期

中計目標ROE
15%以上11.8%
(2025年10月期)中計目標配当性向
35%以上中計目標総還元率
50%以上

38.7%

58.4%

中計目標PBR
2.0倍以上1.33倍
(2025年10月期)

社内で算出した資本コスト（8～10%で認識）
を上回る結果となっております。

実質12年連続の増配、
自己株式取得累計273万株、87億円と
積極的な株主還元を行っております。

引き続きPBR 1倍を超える結果と
なっております。

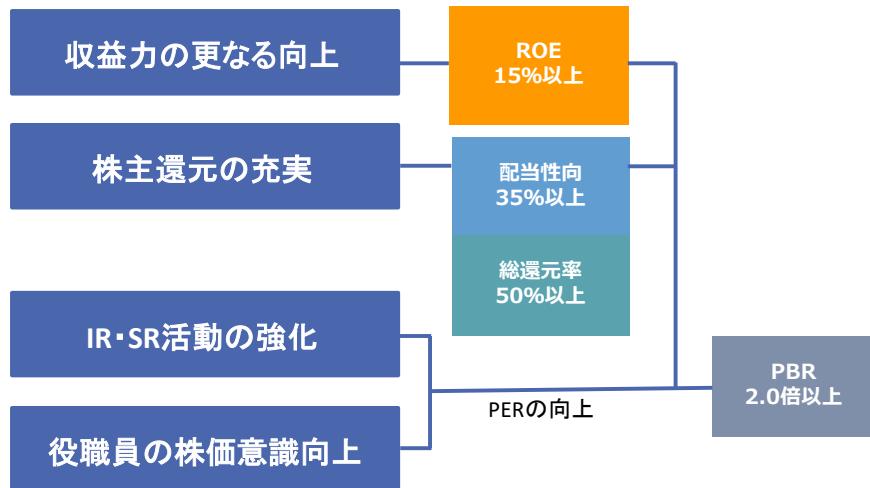
SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

26

併せて今回発表しました資本コストや株価を意識した経営について、残念ながらROEは一歩後退していますが、再度利益率を上げて15%以上に向けていきたいと考えています。あと配当性向も35%以上に向けて進めていきます。またPBR2倍以上を目標にしています。

同時に発表しました従業員の持株会に対するインセンティブです。

この制度も設けていきますので、全般的に会社としては株価を意識した経営にしっかりと持つていきたいと考えております。



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

27

そうした中で資本効率を上げていき、企業価値向上につなげられるという意識を持っております。

財務戦略

キャッシュアロケーション(2025年10月期-2027年10月期)



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

28

またキャッシュアロケーションもこのようになっております。

キャッシュについては300億円以上に現在なっておりますが、銅価格の上昇によってはキャッシュ増の可能性もありますので、しっかりと対応しながら必要に応じて還元を進めていきます。

またこのM&Aの案件も非常に波があります。良い案件があれば思い切った投資も必要だと考えております。

4. 參考資料

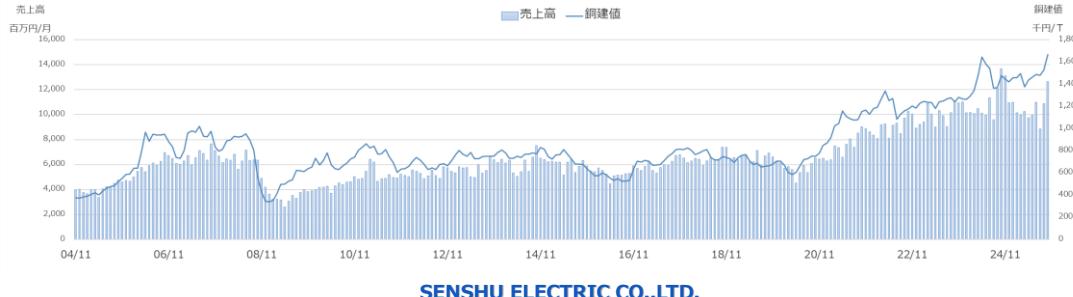
SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

29

電線には「銅電線」「アルミ電線」の2種類があり、当社が取り扱うほとんどが「銅電線」である。銅電線の主材料である銅の価格（銅建値）は、電線を販売する上で重要。銅建値と売上高の推移は次の通り。

国内銅建値は、LME=ロンドン金属取引所（London Metal Exchange）の国際銅建値と為替を換算し、JX金属により決定されます。

〈銅建値と月次売上高推移（単体）〉



30

あとは参考資料です。

銅価格のところについて昨年は146万円台平均ですが、足元188万円、昨年平均よりもトンあたり40万円上がっている中で、新しい領域に入っていますが、正直、戸惑っているのが業界全体の印象であり、どこで落ち着くのかと思っています。上がっている原因ははっきり言いましてファンダメンタルの要素が強いです。銅価格は需給関係で決まります。まず銅の供給には限りがあります。銅の鉱山、特に大手の鉱山に事故があり、その回復がどうやらあと1年ぐらいかかりそうだと言われております。海外の新しい鉱山の開発は進んでいますが、稼働するのがあと5年から8年先と言われるものが多いです。当面、銅の供給は増えない中で、銅の需要が着実に上がっておりまます。

もう一つはAI、半導体です。

AIの普及でデータセンターが世界各地で計画されており、AIは電力をたくさん使います。

データセンターもたくさん電力を使い、電線の需要がさらに上がっていくと言われております。

クリーンエネルギーに対する需要がさらに強まっている中で、太陽光、風力、その他再生可能エネルギーにシフトしていくわけですが、相当銅が使われると言われております。

あと3つ目としましては、全体の景気の流れです。一番大きなポイントは中国です。

中国の景気が悪いと言われてもう3年以上経つわけですが、不動産関係はまだ良くなってはいないと思いますが、いざ製造業になりますと、中国は相当力をつけており、半導体から自動車、あとはロボットが相当力をつけており、需要がこれから出てくることに加え、発展途上国のインフラ需要が銅のニーズを押し上げているというのが背景です。

また環境では電気自動車です。電気自動車が大体ガソリン自動車の約4倍の銅を使うと言われています。

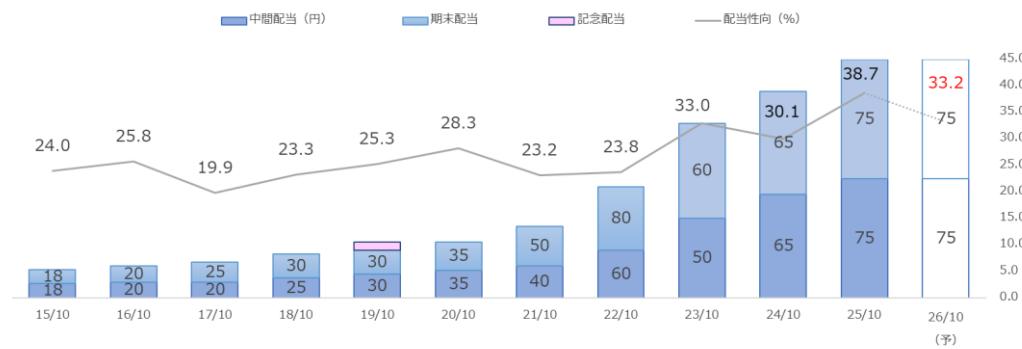
電気自動車のシェアがこれから上がっていくと思いますが、中長期で銅の需要が上がりますので、この辺りが注目のポイントだと思います。

配当金・配当性向の推移



12年連続実質増配

(単位:円,%)



(注)当社は2022年11月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して配当性向を算出。

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

31

あとは配当の推移です。

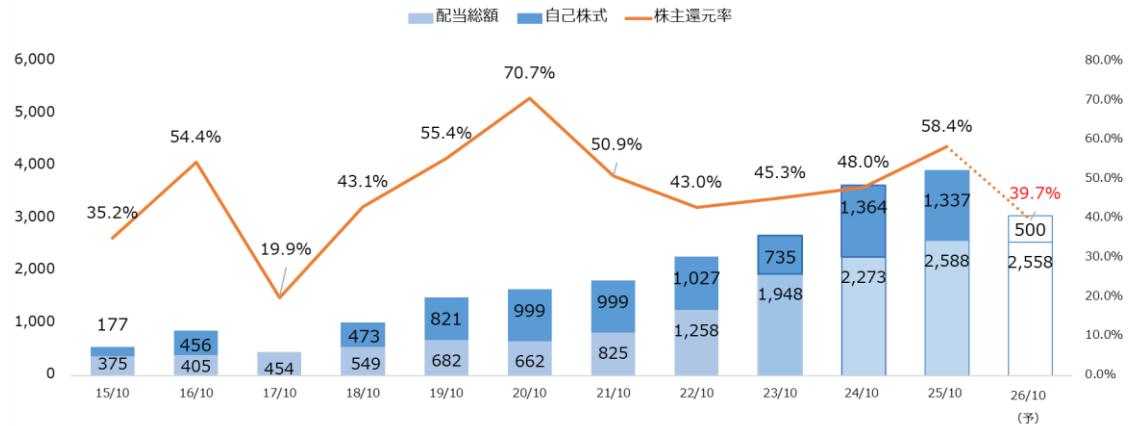
増配をいかに続けられるか、ここがポイントだと思います。

株主還元（配当+自己株式取得）の推移



(単位：百万円)

配当+自己株式取得の継続的な株主還元を実施



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

32

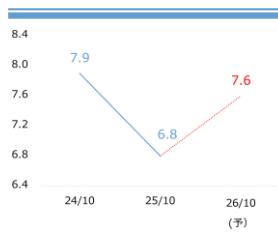
あとは株主還元、配当+自社株買いです。

主な指標

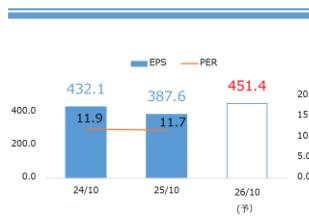
赤=2026年10月期予測 青=実績



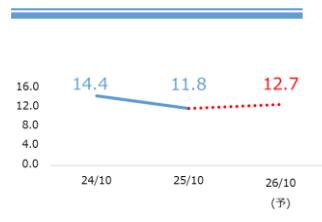
経常利益率 (%)



EPS・PER (円,倍)



ROE (%)



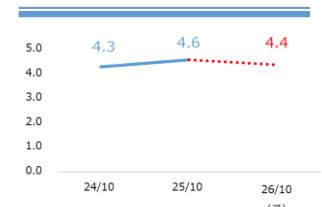
自己資本比率 (%)



BPS・PBR (円,倍)



DOE (%)



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

33

あとは各種指標です。

当社としてもPBR2倍より高いPBRを目標にして、企業価値向上に努めていきたいと考えています。

主な指標



	2017年10月期	2018年10月期	2019年10月期	2020年10月期	2021年10月期	2022年10月期	2023年10月期	2024年10月期	2025年10月期
売上高（百万円）	74,956	82,038	83,676	74,288	92,463	113,633	124,967	136,153	135,591
営業利益（百万円）	3,202	3,868	3,979	3,124	4,743	7,464	8,366	10,349	8,952
経常利益（百万円）	3,455	4,105	4,206	3,382	5,004	7,894	8,770	10,761	9,272
親会社株主に帰属する当期純利益（百万円）	2,289	2,371	2,714	2,351	3,583	5,314	5,920	7,578	6,717
営業利益率	4.3%	4.7%	4.8%	4.2%	5.1%	6.6%	6.7%	7.6%	6.6%
自己資本比率	58.0%	56.8%	57.7%	59.8%	50.9%	48.4%	49.7%	49.1%	52.7%
ROE	6.4%	6.3%	7.0%	5.9%	8.6%	12.0%	12.3%	14.4%	11.8%
期末株価 *	1,255円	1,304円	1,425円	1,446円	2,382円	2,696円	3,085円	5,130円	4,525円
1株当たりの純資産額 *	1830.83円	1921.82円	2047.40円	2147.90円	2342.59円	2578.24円	2843.95円	3165.42円	3407.21円
PBR	0.69倍	0.68倍	0.70倍	0.67倍	1.02倍	1.05倍	1.08倍	1.62倍	1.33倍
年間配当	45円	55円	70円	70円	90円	140円	110円	130円	150円
配当性向	19.9%	23.3%	25.3%	28.3%	23.2%	23.8%	33.0%	30.1%	38.7%
株主総還元率	19.9%	43.1%	55.4%	70.7%	50.9%	43.0%	45.3%	48.0%	58.4%

2017年11月 東京証券取引所第1部へ上場

2022年4月 東京証券取引所プライム市場へ上場

* 2022年11月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行ったため、期末株価及び1株当たりの純資産額の2021年10月期以前の数値は1/2で表示しております

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

34

主な指標はこの通りです。

前期は残念ながら減益になりましたが、2024年10月期が相当高い売上利益になりました。

これに対する減益で、2023年10月期は上回っておりますので、特殊要因もあった2024年10月期は叶いませんでしたが、まだ増収増益のトレンドにあると理解していただきたいと思います。

これからしっかりと増収増益トレンドに戻していきますので、引き続きよろしくお願いします。



ご清聴ありがとうございました



東京証券取引所 プライム市場
コード 9824

泉州電業株式会社

2026年10月期、いろんな課題も残してスタートしておりますが、しっかりと業績、企業価値を上

げていきたいと思いますので、引き続きご支援よろしくお願ひします。

ご清聴どうもありがとうございました。



掲載内容に関する注意事項

本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。将来の業績は、様々な要素により、これらの業績見通しとは異なる結果となりうることにご留意下さい。本資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行なって下さい。
万が一この情報にもとづいて被ったいかなる損害について、弊社及び情報提供者は一切責任を負いません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。
尚、情報は常に最新情報を反映しているものではないことをご承知おき下さい。

 泉州電業株式会社